



絵本で綴る有機農業

■ テーマの目的

- (1) SGSでの学習や研修体験を生かし、次世代の子供たちに有機農業の一端を「**手作り絵本**」で伝えていく
- (2) 兵庫県において取組みが注目されるコウノトリの郷公園周辺地域でのコウノトリ育むお米作りについて「**コウノトリ育むお米物語**」として絵本化に取り組む

手作り絵本の会

SGS6期生

山本 直恭

〃

田中 映子



テーマの取り組み

■ 絵本づくりの流れ

- ① 資料収集：SGS授業・研修旅行、講演、本、記事他
- ② ストーリーのマンガ化：起承転結
- ③ シナリオ文章作り：高学年用、低学年用
- ④ 絵本原画作り：水彩画、写真やスキャナーを活用
- ⑤ 絵と文をセット：パソコン、プリンター他活用
- ⑥ 製 本： 表紙・裏表紙・あとがき



SGSでの研修より学ぶ

- ① **SGS授業：保田学長の講義**
「今朝、ごはんを食べましたか」に始まる――
- ② **特別授業：農業、林業、漁業等に携わる人や専門家**
最新情報および課題（高齢化、後継者不足）
- ③ **研修旅行：有機栽培農家（米、野菜、茶他）、但馬牛牧場、
地産品の加工場や販売所等の見学**
県の各種試験施設、機関等の訪問、
海外研修
- ④ **外部講演：環境創造型農業推進フォーラム（兵庫県）**
地域農政フォーラム、ビレッジ懇話会等

①コウノトリの郷公園(豊岡市)／コウノトリ育む農法



コウノトリの郷公園



冬期湛水(たんす)

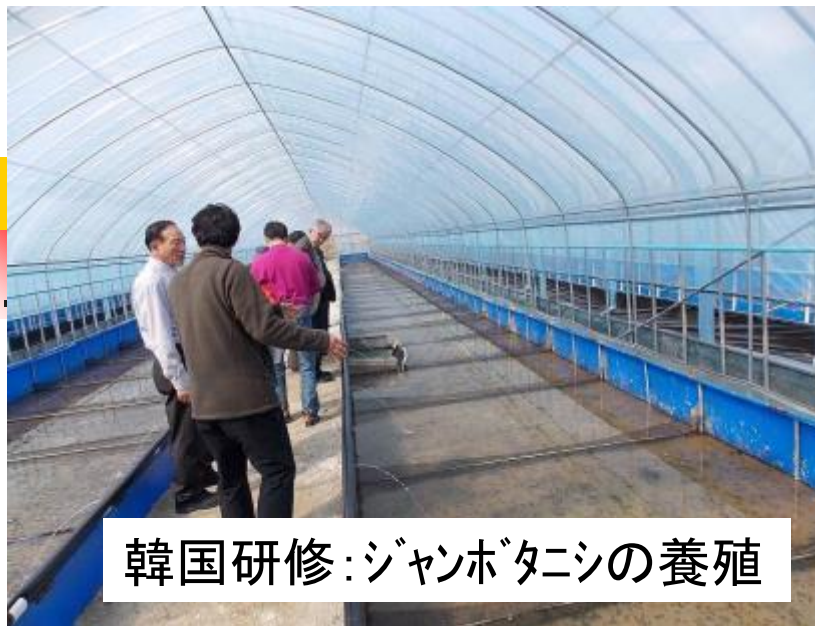


コウノトリ育むお米



環境創造型農業推進フォーラム

②SGS研修旅行／出前紙芝居



韓国研修：ジャンボタニシの養殖



ひょうご安心ブランド



出前紙芝居：花山小



海上地区元気村



コウノトリ育むお米物語

まえがき

このSGSの6年間、保田学長の「今朝、ごはんを食べましたか。」に始まる有機農業の講義により、最新事情を学ぶことができました。

また、研修旅行では県下の有機栽培農家や農業試験場、各種機関等の第一線の取り組みに接することができました。

我々の主食であるお米については、消費量の低下傾向に伴う生産量減少および高齢化と後継者不足による生産人口の減少という大変深刻な課題を抱えており、この国の将来について考えさせられました。

次世代を担う子供たちに、最も身近な食育の大切について伝えることができないかと手作り絵本のテーマとして、**兵庫県**が、全国に先駆けて先進的な取り組みをしている「**コウノトリ育むお米**」について取り上げました。

2013年12月

手作り絵本の会



「コウノトリ育む物語」の紹介

■ 絵本の朗読

父親： 角本 功 （6期）

母親： 森本美智子（9期）

花子： 田中 映子 （6期）

太郎： 山本 直恭 （6期）

点字付き絵本

点字： 衣笠 年子 （6期）

場面1:食卓

花子さん、太郎くんのお家では、みんなで夕食中です。

「お父さん、今日私の学校でお米のことについて調べる宿題が出たのよ。このおいしいお米はどこで作られたの？」

「このお米は、コウノトリの再生にとりくんでいるコウノトリの郷公園周辺の農家が、苦勞しながら作ったんだよ。」



場面2: 遺跡の足跡

太郎くんは、コウノトリについてもっと知りたくなりました。

「お父さん、コウノトリは、日本にも昔、たくさんいたの?」

「そうだよ。昔は、身近な所にたくさんいたんだよ。」

最近のニュースで、大昔の田んぼの遺跡からコウノトリの足跡が見つかったと言ってたよ。また、昔の古墳から出たドウタクにかかれた鳥の絵が、コウノトリらしいという話もあるんだよ。」



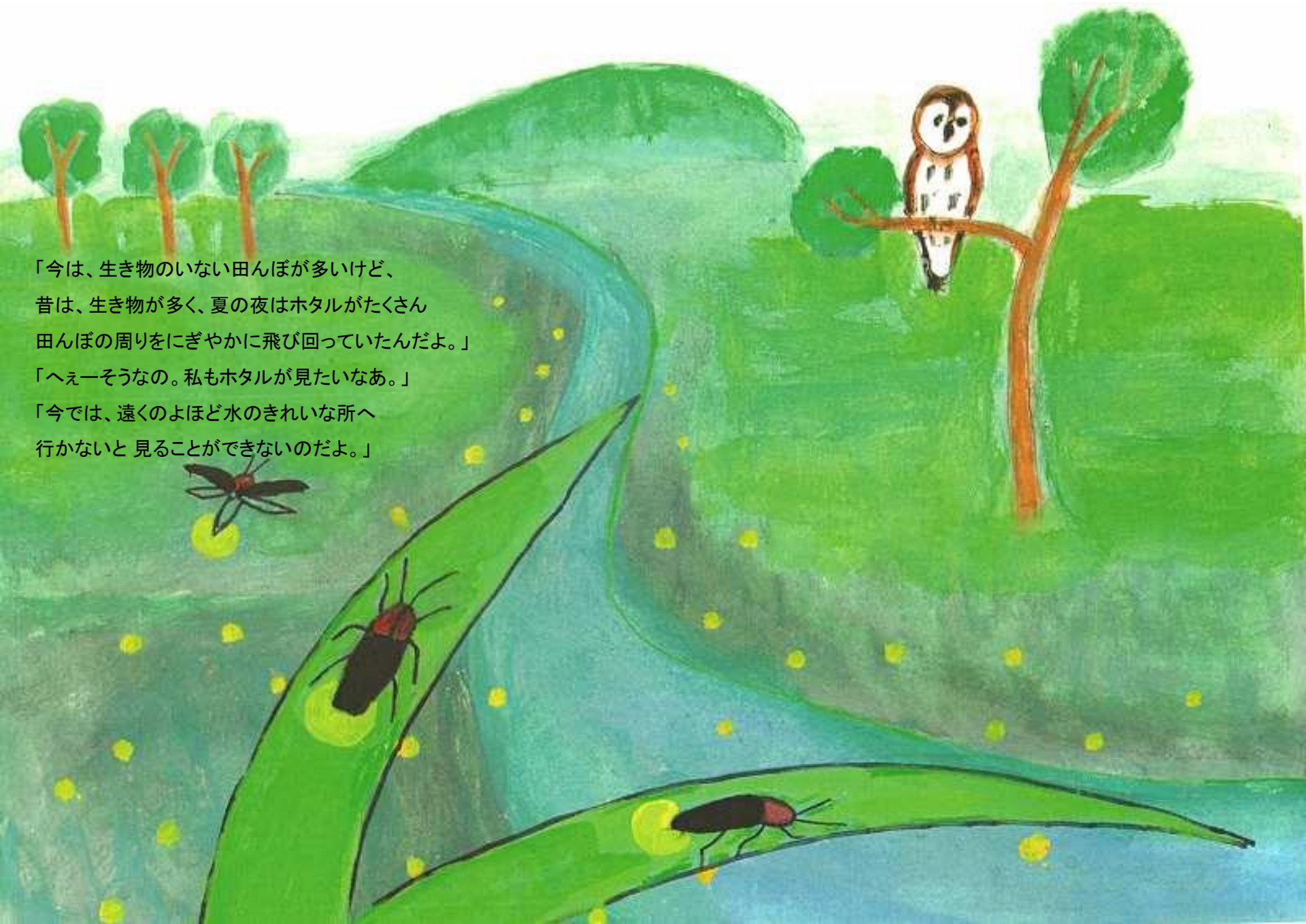
場面3: 田んぼの生き物

お父さんが、休日に田うえ後の田んぼにつれていってくれました。
田んぼにトンボのヤゴやおたまじゃくし、ゲンゴロウやミズスマシなどが、
たくさんいるのにおどろいていると、お母さんが、「コウノトリは、
これらの生き物やカエル、魚、昆虫などを食べて
成長しているのよ。」と教えてくれました。



場面4: 昔と今の田んぼ

「今は、生き物のいない田んぼが多いけど、昔は、生き物が多く、夏の夜はホタルがたくさん田んぼの周りをにぎやかに飛び回っていたんだよ。」
「へえーそうなの。私もホタルが見たいなあ。」
「今では、遠くのよほど水のきれいな所へ行かないと 見ることができないんだよ。」



場面5:コウノトリの絶滅

「お父さん、昔たくさんいたコウノトリが、どうしていなくなったの？」

「コウノトリは、もともと渡り鳥で日本の各地に飛んで来ていたのだよ。

それが、戦後、狩りの対象になったりして、余り大切にされなかったのだよ。

それに、戦後まもなく田んぼに農薬などを使うようになってから田んぼの

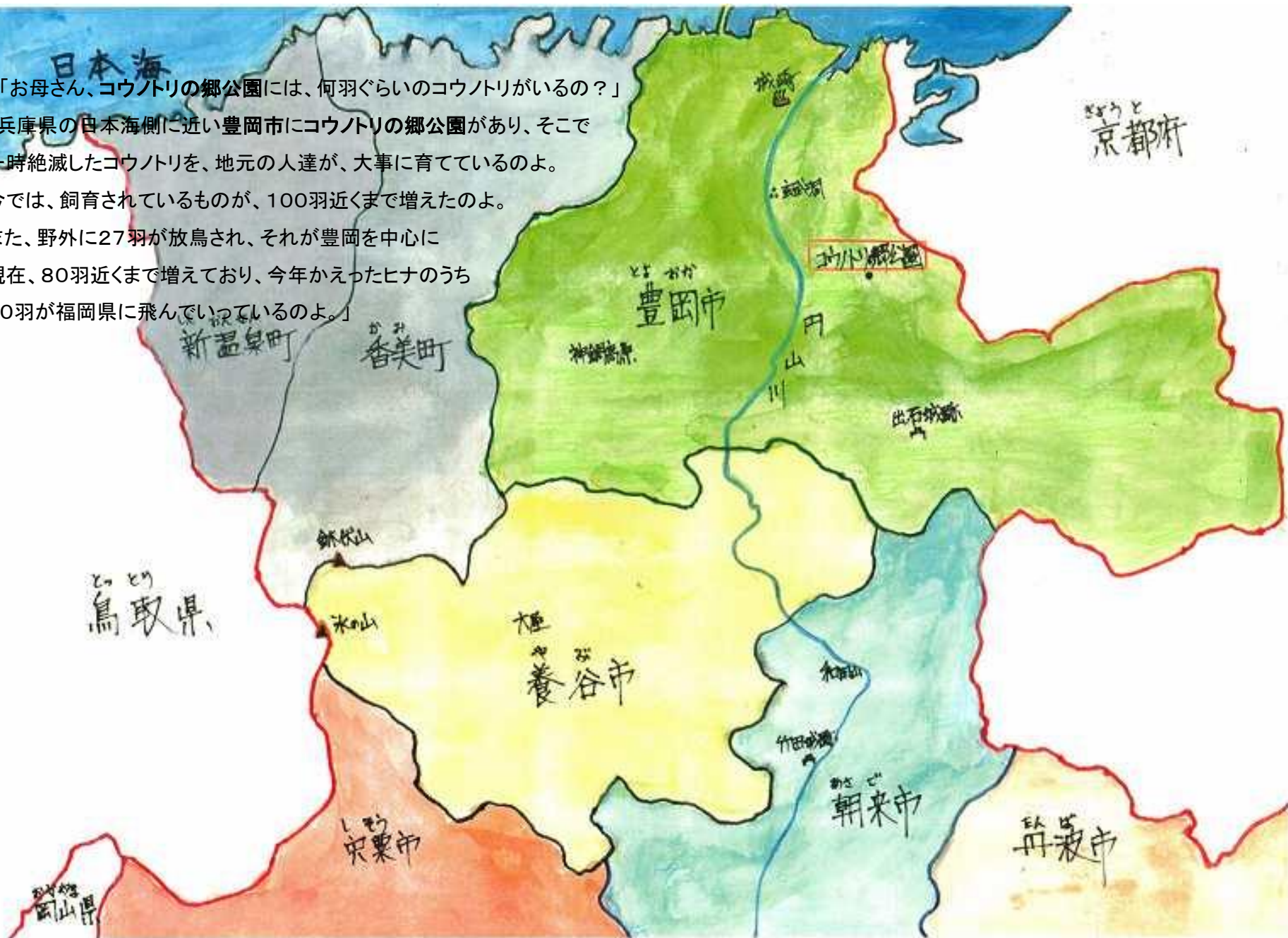
生き物も減り、コウノトリの体にも悪い影響を与え、ついに生きられなく

なってしまったんだ。」



場面6:コウノトリの郷公園

「お母さん、コウノトリの郷公園には、何羽ぐらいのコウノトリがいるの？」
「兵庫県の日本海側に近い豊岡市にコウノトリの郷公園があり、そこで一時絶滅したコウノトリを、地元の人達が、大事に育てているのよ。
今は、飼育されているものが、100羽近くまで増えたのよ。
また、野外に27羽が放鳥され、それが豊岡を中心に現在、80羽近くまで増えており、今年かえったヒナのうち10羽が福岡県に飛んでいっているのよ。」



場面7:コウノトリの子育て

コウノトリは、昔は里山の大きな松の木の上に巣をかけていました。
今は2月中旬頃から人工巣塔で巣作りをし、3月～5月に産卵します。
約1ヶ月でふ化し、ヒナが生まれます。ヒナは、親鳥がつかまえたドジョウ
や魚などをたくさんもらって食べ、2ヶ月位たつと親と同じ大きさ
まで成長して、巣立っていきます。



場面8:コウノトリのエサ



「お母さん、今いるコウノトリの体は、大丈夫なの？」
「コウノトリの郷公園周辺の田んぼでは、農薬を使わないようにして
お米を作っているのよ。化学肥料を使わずに有機肥料を使ったり、
除草剤をできるだけ使わないで、アイガモに雑草を食べさせたりして
工夫しながら米づくりをしているのよ。」
「あっ、そうなんだ。よかった。」



場面9:コウノトリの郷



「お父さん、水田によく降りてくるコウノトリは農作業のじゃまにならないの？」

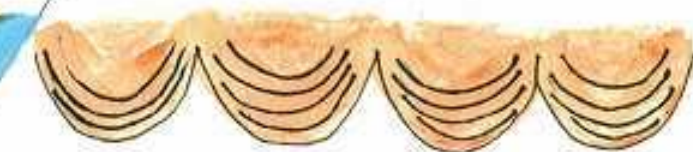
「コウノトリは、イネを傷めないで、バッタやイナゴなどを取ってくれるので、農家の人も助かっているのだよ。」

水田のカエル、フナやドジョウもコウノトリのエサになり、地元の人もコウノトリを温かく見守って大事にしているので、コウノトリは、安心して子育てができるのだよ。」



場面10: 地元若者のクラブ活動

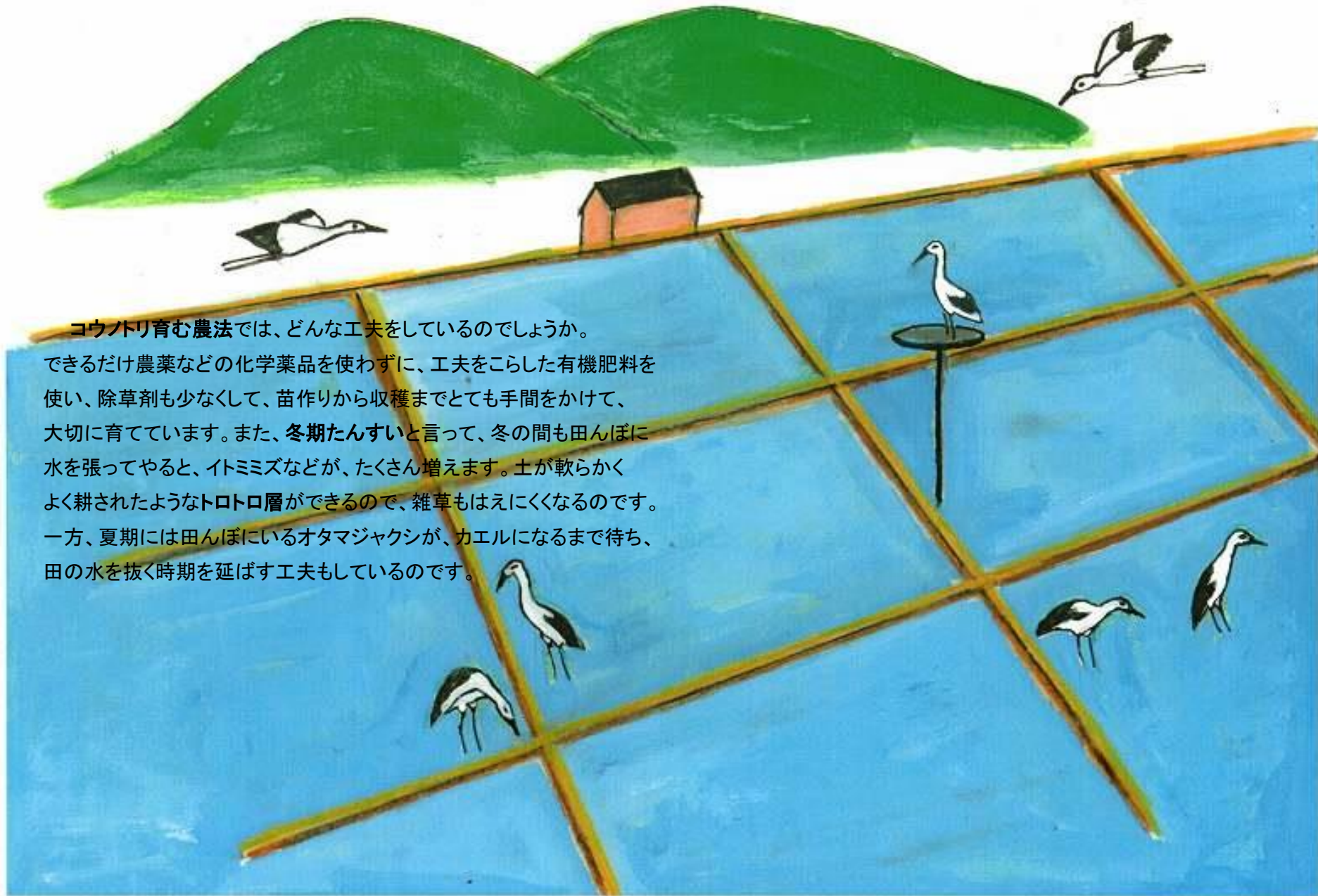
太郎さんと花子さんは、地元の子供たちが、どのような活動をしているのか知りたくなりました。地元の小中学生たちは、**新田プロジェクトE**というクラブで、**コウノトリ育む農法**に挑戦しています。試験用の田んぼを持ち、よい米作りをするために、どのような工夫をしたらよいのかを研究をしています。そして、神戸での発表会では、その活動や研究成果がくわしく紹介されました。大人たちだけでなく、次世代を担う若者たちも、こうしてコウノトリを見守っているのです。



環境創造型農業推進フォーラム



場面11: コウノトリを育む農法



コウノトリ育む農法では、どんな工夫をしているのでしょうか。

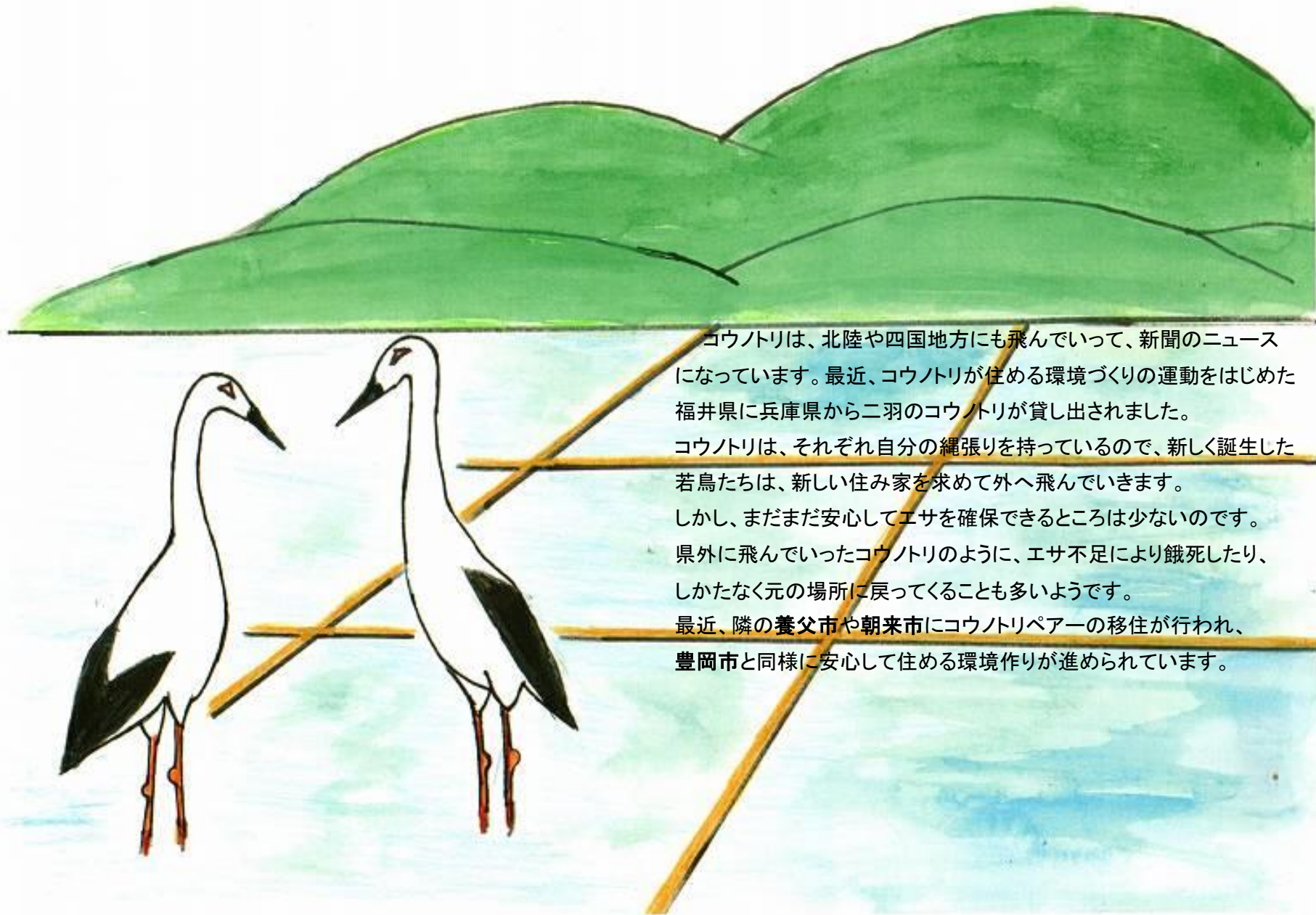
できるだけ農薬などの化学薬品を使わずに、工夫をこらした有機肥料を使い、除草剤も少なくして、苗作りから収穫までとても手間をかけて、大切に育てています。また、**冬期たんすい**と言って、冬の間も田んぼに水を張ってやると、イトミズなどが、たくさん増えます。土が軟らかくよく耕されたような**トロトロ層**ができるので、雑草もはえにくくなるのです。一方、夏期には田んぼにいるオタマジャクシが、カエルになるまで待ち、田の水を抜く時期を延ばす工夫もしているのです。

場面12: コウノトリ育むお米

「お母さん、コウノトリ育むお米はどこで買える？」
「但馬地方の道の駅や直売所で買えるよ。最近では、
お米を扱っている近所のお店でも買えるようになってきたのよ。」
「お父さん、もっとコウノトリ育むお米を作ってくれる人が増えるといい
ね。」
「最近、コウノトリ育むお米のような安心ブランド米や有機米を作ろう
という農家が豊岡市や周辺の地域にも広がっているのだよ。」



場面13:コウノトリの住み家



コウノトリは、北陸や四国地方にも飛んでいって、新聞のニュースになっています。最近、コウノトリが住める環境づくりの運動をはじめた福井県に兵庫県から二羽のコウノトリが貸し出されました。

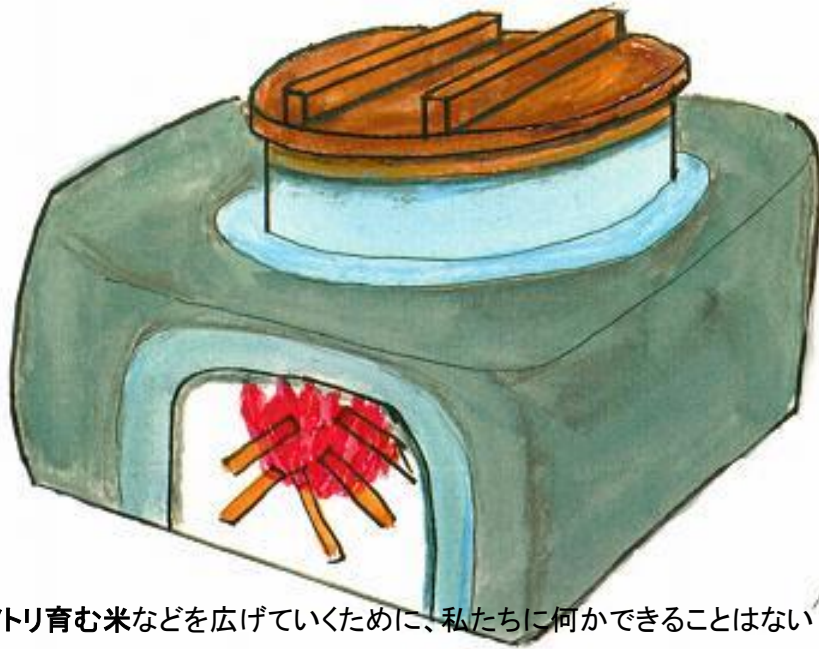
コウノトリは、それぞれ自分の縄張りを持っているので、新しく誕生した若鳥たちは、新しい住み家を求めて外へ飛んでいきます。

しかし、まだまだ安心してエサを確保できる場所は少ないのです。

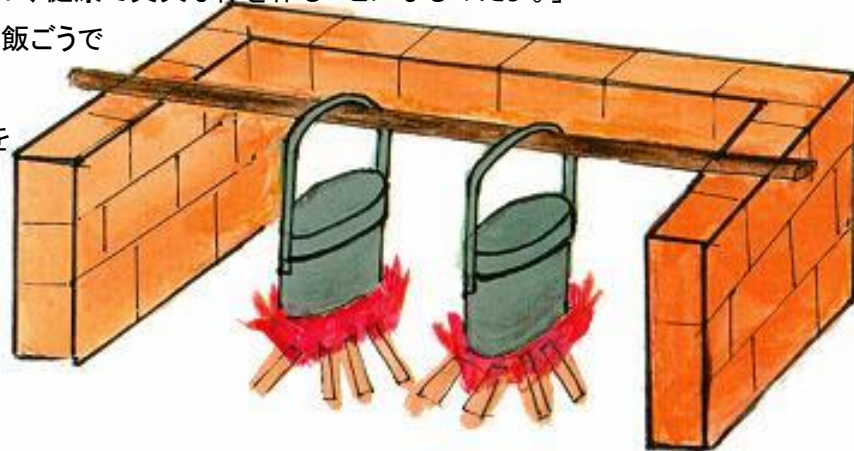
県外に飛んでいったコウノトリのように、エサ不足により餓死したり、しかたなく元の場所に戻ってくることも多いようです。

最近、隣の養父市や朝来市にコウノトリペアの移住が行われ、豊岡市と同様に安心して住める環境作りが進められています。

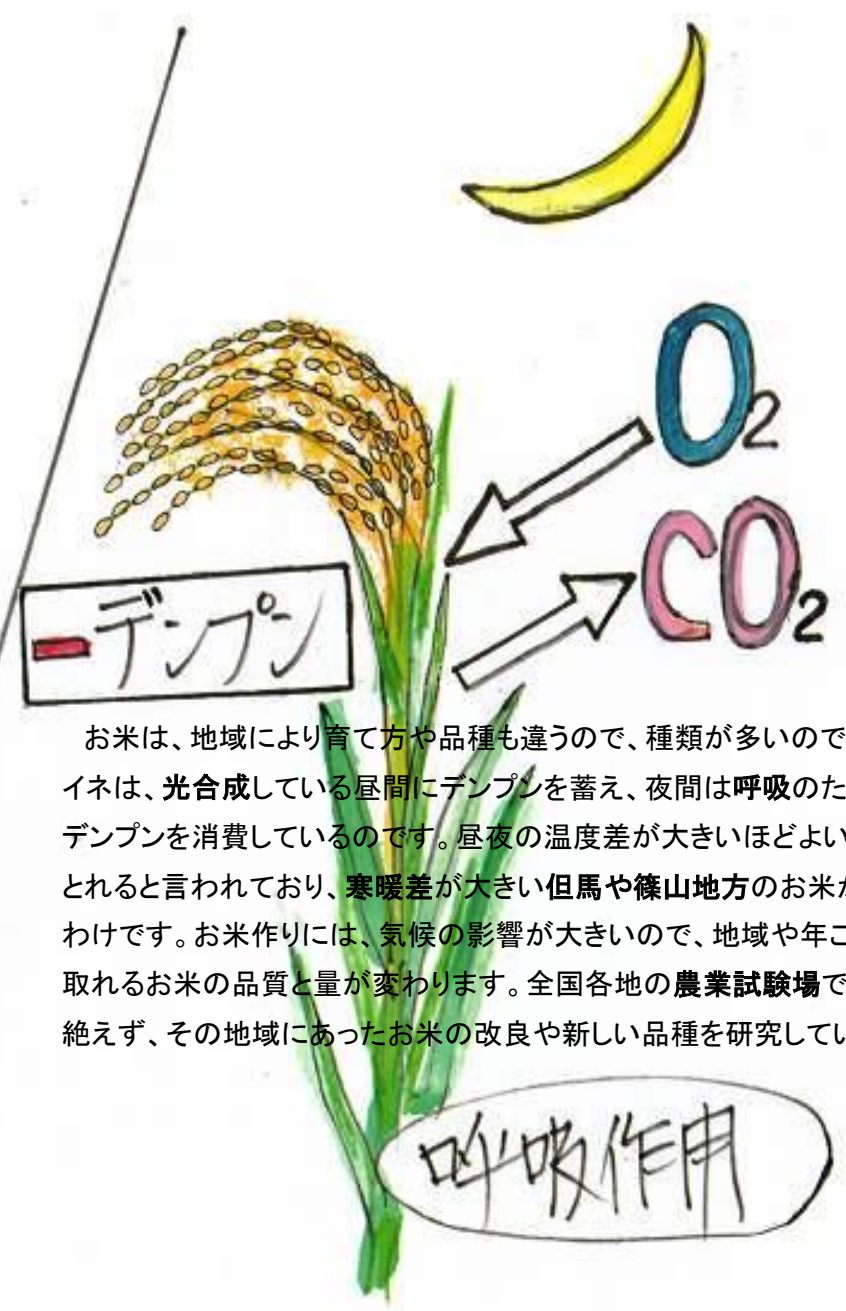
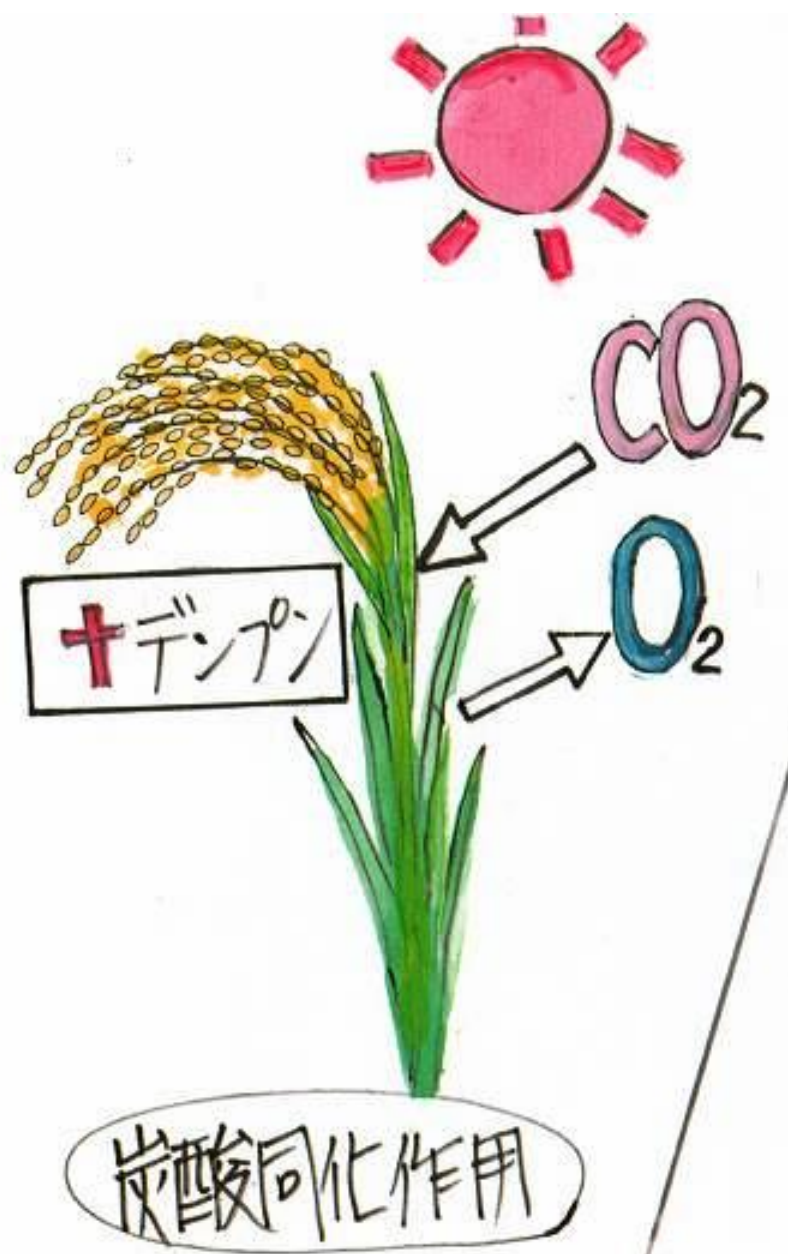
場面14: お米を食べよう



「コウノトリ育む米などを広げていくために、私たちに何かできることはない？」
「農家がたんせい込めて育てたお米をよく味わい、しっかり食べることが、農家を
応援することになるのだよ。学校給食やお家のご飯を残さずに食べようね。
日本人の体にあったご飯を食べることが、健康で丈夫な体を作ることになるのだよ。」
「ぼくもキャンプに行ったとき、みんなと飯ごうで
お米を炊いてカレーを作ったよ。」
「こんど、お母さんが炊飯器の使い方を
教えるから、おいしいご飯を一緒に
炊いてみようね。」



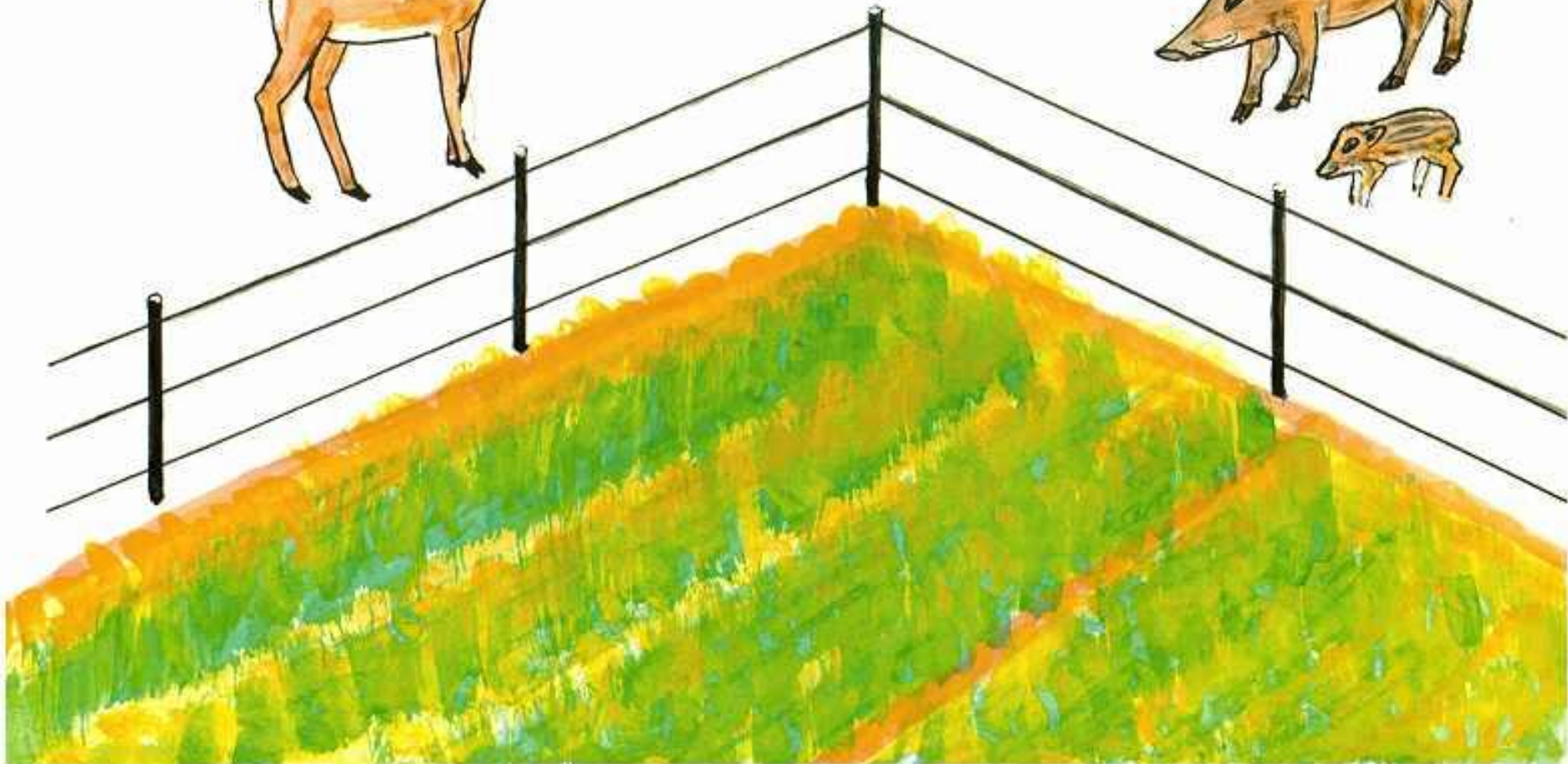
場面15: お米の種類



お米は、地域により育て方や品種も違うので、種類が多いのです。イネは、光合成している昼間にデンプンを蓄え、夜間は呼吸のためにデンプンを消費しているのです。昼夜の温度差が大きいほどよいお米がとれると言われており、寒暖差が大きい但馬や篠山地方のお米がおいしいわけです。お米作りには、気候の影響が大きいので、地域や年ごとに取れるお米の品質と量が変わります。全国各地の農業試験場では、絶えず、その地域にあったお米の改良や新しい品種を研究しています。

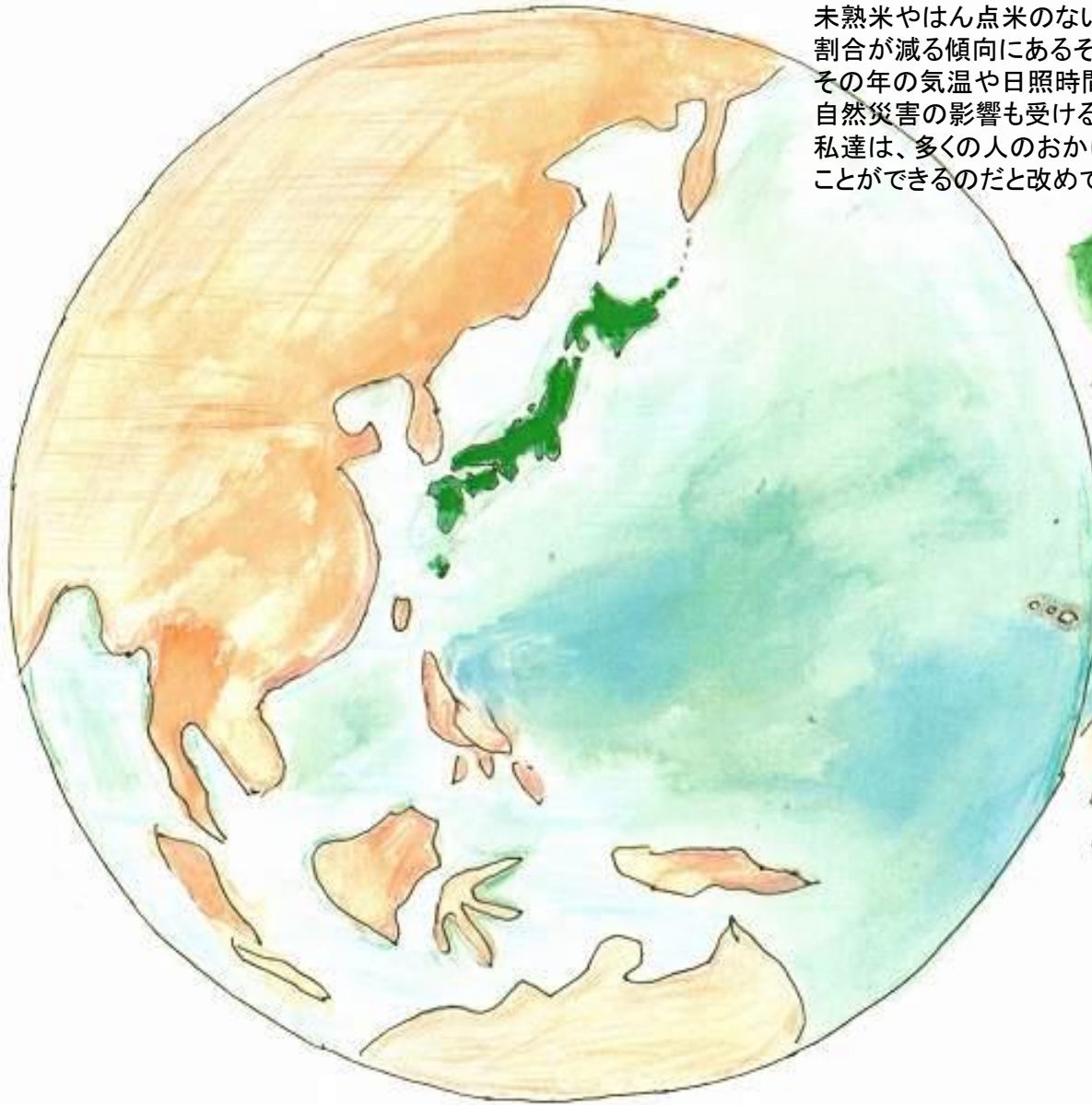
場面16: お米作りの苦労

これまでの話を聞いていると、おいしくて安全なお米作りは大変だと思います。最近、お米を作っている農家では、高齢化が進み後継者が減っている問題を抱えています。また、山林や里山の手入れが行き届かなくなり、イノシシやシカが山から降りてくる被害が増えており、山あいの田んぼでは、防護網で囲いをしている所が目立ちます。また、自然相手の仕事なので、異常気象の影響や風水害の被害も年々増えています。

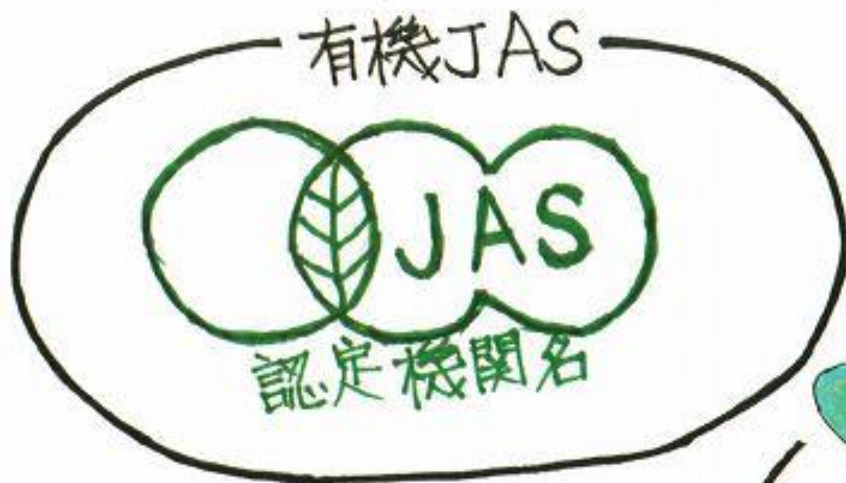


場面17:地球温暖化の影響

地球の温暖化は、お米作りにも大きな影響を与えています。例えば、温暖化により、イネの生育環境が変ってきているので、未熟米やはん点米のない良い品質のお米(1等米)のとれる割合が減る傾向にあるそうです。また、お米の品質や収穫量は、その年の気温や日照時間の変化だけでなく、台風や洪水などの自然災害の影響も受けるので、毎年変化しているそうです。私達は、多くの人のおかげで、安心してよいお米を食べることができるのだと改めて思いました。



場面18:安心なお米



「農薬をできるだけ使わないお米や野菜を食べるのが、健康な体をつくるのに、とっても大事なことだ。」とわかりましたので、二人は、これからも食べ物の大切さについて、もっと関心を持ちながら勉強したいと思いました。
兵庫県のお米や農産物などには、「よい品質なので、安心して食べられます。」という印として「ひょうご安心ブランド」や「有機JAS」などのマークがついていますので、ぜひ近所のお店でも、さがして見て下さい。





今後の取り組み

- 手作り絵本「コウノトリ育むお米物語」の充実
： 高学年用、低学年用、点字付き絵本
- 出前本読みの実践： 小学校, 児童館他
- 絵本の応用： 紙芝居, 電子絵本や電子紙芝居
- 次テーマ本の検討： 里山物語、有機野菜物語他

ご清聴ありがとうございました

